

キノテック・ソーラーエナジー

電気炉ダストから99%の高純度で亜鉛地金を製造できる新たなプロセス技術が実用化に向けて大きく前進している。同技術はキノテック・ソーラーエナジー（NEDO）の助

電炉ダストには亜鉛が約30%、鉄が約20%含まれる。現在、電炉ダストの処理はウエルツキルン法と呼ばれるロータリーキルン（母里社長）として利用でき、電気炉ダストの粗酸化亜鉛を回収する。プラント自体が建設できることも特徴とする。

また、電気炉ダストの発生量は年間約50億円。通常のプロジェクト成立要件である10〜15%を大きく上回る。また、電気炉ダストの品位98%以上の世界最大の市場とする。

規模は年1400万トンを原料とする電気炉ダストを製造することは世界の製造法に関して米国の環境対策や資源確保や欧州、中国でも特許審査を請求している。

電炉ダストから高純度の亜鉛製造

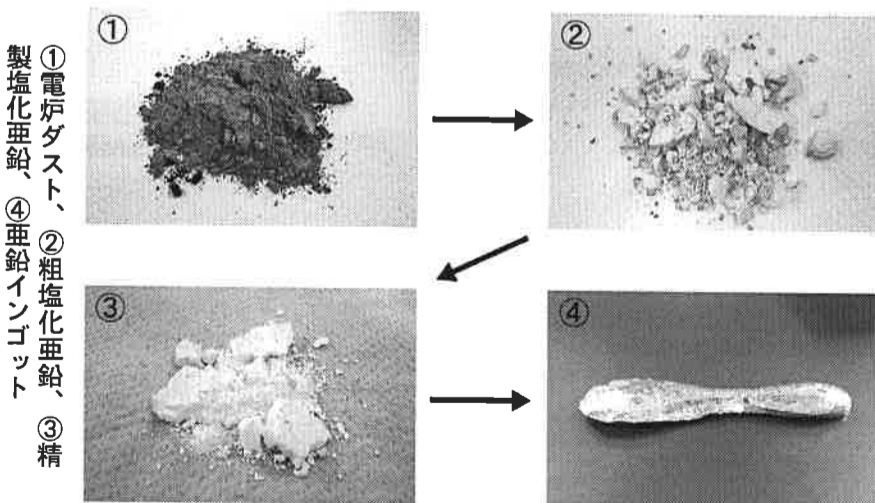
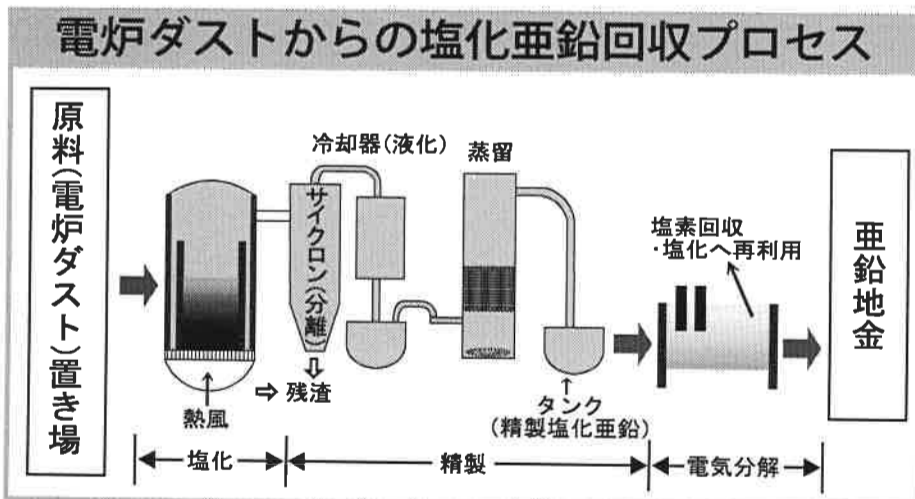
新プロセス 実用化へ大きく前進

6月、東大で流動床試験機稼働

ナジー（社長・母里修成）が、東京大学の松浦宏行准教授及び群馬大学の野田玲准教授の協力で開発した。原料の電気炉ダストから空気と塩素の混合ガスをを用いて塩化亜鉛を回収し、精製した塩化亜鉛を溶融塩電解法で

成を受け、6月には流動床を備えた小型の選別機にリターンされている。選別機を東大内馬大学の野田玲准教授の協力で開発した。原料の電気炉ダストから空気と塩素の混合ガスをを用いて塩化亜鉛を回収し、精製した塩化亜鉛を溶融塩電解法で

電気炉ダストの国内発生量は年約50万ト。仮に月4千トのダストが発生する電炉メーカーが選別機法によるダスト処理プラントを導入した場合、内部収益率（IRR）は20%以上（前提条件は亜鉛価格30万円、建設コス



①電炉ダスト、②粗塩化亜鉛、③精製塩化亜鉛、④亜鉛インゴット